

とちぎ秋まつり4年ぶりの開催

1. とちぎ秋まつりについて

歴史的建造物や伝統的建造物が残る町並みを背景に繰り広げられる「とちぎ秋まつり」は、江戸・明治時代の商都としての豊かさが江戸型人形山車の豪華な山車文化を栃木にもたらし、栃木の人達によって大切に受け継がれてきました。

現在、9台の山車と一対の獅子頭があり、ゆっくりと巡行する山車の前を、^{しゃくじょう}錫杖を持った手^て古舞姿の子ども達や、山車を曳く^{いなせ}鯨背な着物姿や職人姿の大人達が通りを行き交い、お囃子の音色が響き渡り江戸の風情がよみがえってきます。



2. とちぎ秋まつりの起源と開催状況について

明治7年(1874)栃木県庁構内で行われた^{じんむさいてん}神武祭典を起源とし、その後神武祭や神社の付祭としてとり行われ、昭和12年(1937)の市制施行祭以降は、市の発展の祭礼として行われてきました。近年は2年に一度の開催で、前は平成30年に開催され、期間中約40万人が訪れました。

3. 開催概要

- 名称 令和4年とちぎ秋まつり
4つの記念事業として開催する。
 - ・栃木商工会議所創立130周年記念
 - ・嘉右衛門町重要伝統的建造物群保存地区選定10周年記念
 - ・渡良瀬遊水地ラムサール条約湿地登録10周年記念
 - ・滝川市 友好親善都市盟約締結40周年記念
- 主催 令和4年とちぎ秋まつり実行委員会
- 日時 11月11日(金) 午前9時～午後3時30分 こども山車まつり
12日(土)、13日(日) 午前9時30分～午後8時 本まつり
- 会場 栃木県栃木市 とちぎ蔵の街大通り
- 巡行山車 山車9台(獅子頭1対は展示のみ)
- 観光客数 見込み 130,000人
- 見どころ 江戸・明治時代に作られた絢爛豪華な江戸型人形山車
日没後の提灯に照らし出された山車とお囃子の幻想的な世界
山車が向き合って、お囃子を競い合う「ぶっつけ」
地元の産業と物産展、郷土芸能(お囃子、和太鼓等)披露
大町の人形(弁慶)が令和3年の修復後、初巡行となります。

4. こども山車まつりについて

「こども山車まつり」は伝統を体験してもらい次世代に継承することを目的に、平成22年から開催しており、今年で6回目の開催となります。

今年は市内の小学校28校の3、4年生、約2,300人が参加し、9台の江戸型人形山車を曳き、伝統を体験していただきます。

5. 秋まつり日程表

11月11日（金）こども山車まつり

【まつり会場交通規制 午前9時～午後4時】

午前9時30分～ まつり会場内巡行

午後12時～ 休憩

午後1時15分～ まつり会場内巡行（午後3時30分まで）

11月12日（土）、13日（日）本まつり

【まつり会場交通規制 午後1時～午後8時30分】

午前9時～ 各町内巡行

午後1時30分～ 出発式（12日のみ）まつり会場内巡行

午後4時30分～ 休憩

午後5時30分～ まつり会場内巡行

午後7時45分～ 手締式（13日のみ）

午後8時～ 各町内御仮屋へ

～まつり会場外巡行～

12日（土） 巴波川巡行 午前9時30分～午後12時

新栃木駅巡行 午前9時30分～午後12時

13日（日） 市立美術館・文学館巡行 午前10時～午前11時

巴波川巡行 午前9時30分～午後12時

栃木駅巡行 午前10時～午後12時

※市立美術館・文学館巡行以外は各会場において交通規制あり

6. 新型コロナウイルス感染症感染防止策について

(1) 山車等の巡行

①巡行時間

密集にならない巡行や、観覧時の身体的距離を確保するため、まつり会場内での巡行時間は1時間から1時間30分とし、間に30分から1時間の展示（休憩）する時間を設けます。

②巡行方法

山車等の巡行方法を各山車等の間隔を十分（100m以上）にとつての右回りとします。参加者や来場者が密にならないように、各山車等には係員を配置し、誘導等により場内整理を行います。

(2) 飛沫の抑制の徹底

「ぶっつけ」については、大声を伴うことと十分な人と人との間隔（できるだけ2m、最低1m）を確保することが困難なことから、慎重に検討のうえ実施を判断します。

検討のうえ実施するとなった場合でも、掛け声をかける者やぶっつけを行う時間に制限を設けるなど、感染対策を講じた上で実施します。

(3) 飲食の制限

まつり会場内における歩道上での飲酒、食事、食べ歩きの自粛や飲食用に感染防止策を行ったエリア以外での食事を行わないことを呼び掛けます。（水分補給等は除く）

(4) 感染拡大防止ガイドラインの作成

令和4年とちぎ秋まつりの運営にあたり、新型コロナウイルス感染症感染防止策など留意すべき事項を取りまとめた「令和4年とちぎ秋まつり新型コロナウイルス感染症感染防止ガイドライン」に基づき、最大限の対策を講じることとします。

7. 山車等について

<p>泉 町市</p>  <p>人形 諫鼓鶏 かんこどり</p> <p>全日巡行</p> <p>①明治7年(1874)以前 ②作者不明 ③天下泰平の象徴。良い政治が行われ訴えを聞く太鼓を叩く者が無く、鳥が太鼓に果を作ったという故事。</p>	<p>嘉右衛門町市</p>  <p>人形 仁徳天皇 にんとくてんのう</p> <p>全日巡行</p> <p>①昭和期 ②安生 ③【山車】漆塗り仕上げ 【上段幕】嘉の文字の意匠化刺繍</p>	<p>大 町市</p>  <p>人形 弁慶 べんけい</p> <p>全日巡行</p> <p>①明治期 ②作者不明 ③【前柱】昇り下りの竜の彫刻 【裏格子】意作の印、葡萄と木鼠の彫刻 【正面】紅葉唐獅子牡丹の透かし影 【傍】波に亀の影 【前垂】梅に鶯の影</p>	<p>凡例</p> <p>Ⓐ 県指定有形民俗文化財 Ⓑ 市指定有形民俗文化財</p> <p>① 制作・購入年 ② 人形の作者 ③ 山車等の特徴</p>
<p>万町二丁目県</p>  <p>人形 関羽雲長 かんううんちよう</p> <p>13日巡行</p> <p>①明治11年(1878) ②人形師 三代目 法橋 原舟月 ③【上段幕】緋羅紗地 飛竜 緋入刺繍 【見送幕】錦襦 竜小丸 鳳凰小丸袖紋</p>	<p>万町三丁目県</p>  <p>人形 張飛翼徳 ちようひよくとく</p> <p>13日巡行</p> <p>①明治11年(1878) ②人形師 三代目 法橋 原舟月 ③【上段幕】羅紗 四神刺繍 【見送幕】錦襦 七宝枠に亀 牡丹 菊織込</p>	<p>万町三丁目県</p>  <p>人形 素盞鳴尊 すさのおのみこと</p> <p>11日巡行 12日巡行</p> <p>①明治26年(1893) ②人形師 三代目 法橋 原舟月 ③【上段幕】緋羅紗地 飛竜 緋入刺繍 【見送幕】錦襦 竜小丸 鳳凰小丸袖紋</p>	<p>万町三丁目県</p>  <p>人形 張飛翼徳 ちようひよくとく</p> <p>13日巡行</p> <p>①明治11年(1878) ②人形師 三代目 法橋 原舟月 ③【上段幕】羅紗 四神刺繍 【見送幕】錦襦 七宝枠に亀 牡丹 菊織込</p>
<p>倭町二丁目県</p>  <p>人形 神武天皇 じんむてんのう</p> <p>全日巡行</p> <p>①明治26年(1893) ②人形師 三代目 法橋 原舟月に依頼し制作は古居泰山 ③【上段幕】四面緋羅紗 金色竜丸に雲刺繍 【見送幕】木綿地に赤白緑の縞子</p>	<p>倭町三丁目県</p>  <p>人形 静御前 しずかごぜん</p> <p>全日巡行</p> <p>①嘉永元年(1848) ②松雲斎徳山 ③【水引幕】錦襦に巴紋の刺繍 【見送幕】金糸で若松の刺繍</p>	<p>万町一丁目県</p>  <p>人形 劉備玄德 りゅうびげんとく</p> <p>13日巡行</p> <p>①明治11年(1878) ②人形師 三代目 法橋 原舟月 ③【上段幕】緋羅紗地 飛竜 緋入刺繍 四面一枚統き 【見送幕】錦襦 牡丹唐草宝尽し三色継</p>	<p>万町一丁目県</p>  <p>人形 天照大神 あまてらすおみかみ</p> <p>11日巡行 12日巡行</p> <p>①明治26年(1893) ②人形師 三代目 法橋 原舟月 ③【上段幕】緋羅紗地 飛竜 緋入刺繍 四面一枚統き 【見送幕】錦襦 牡丹唐草宝尽し三色継</p>
<p>室 町県</p>  <p>人形 桃太郎 ももたろう</p> <p>全日巡行</p> <p>① 明治28年(1895)頃 ②大沢銀之丞 ③【人形座】勾欄、中段、腰、囃子座は意匠を統一 【欄間】長押を二重廻彫刻</p>	<p>倭町一丁目市</p>  <p>人形 雌獅子 めじし</p> <p>展示</p> <p>①明治6年(1873)以前②作者不明 ③金箔に生漆噴仕上げ。厄除け・和合火防の獅子</p>	<p>倭町一丁目市</p>  <p>人形 雄獅子 おじし</p> <p>展示</p> <p>①明治6年(1873)以前②作者不明 ③金箔に生漆噴仕上げ。厄除け・和合火防の獅子</p>	<p>【問い合わせ】 産業振興部 観光振興課 担当：廣瀬・小花 電話：0282-21-2851</p>